

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成 21 年 4 月 30 日 (2009.4.30)

【公開番号】特開 2008-182741 (P2008-182741A)

【公開日】平成 20 年 8 月 7 日 (2008.8.7)

【年通号数】公開・登録公報 2008-031

【出願番号】特願 2008-60962 (P2008-60962)

【国際特許分類】

H 0 4 N 7/32 (2006.01)

【F I】

H 0 4 N 7/137 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 21 年 3 月 17 日 (2009.3.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

現在のピクチャの双予測ブロックのダイレクトモード動きベクトルの導出方法であって

、

同一位置にあるブロックが list 1 動きベクトルのみを有する場合は、前記現在ピクチャの双予測ブロックのダイレクトモード動きベクトルを導出するための動きベクトルとして、第 1 レファランスピクチャの同一位置にあるブロックの list 1 動きベクトルを選択し、前記現在ピクチャと、前記第 1 レファランスピクチャの同一位置にあるブロックによって参照される第 2 レファランスピクチャとの間の第 1 の時間間隔を求め、

前記第 1 レファランスピクチャと前記第 2 レファランスピクチャとの間の第 2 の時間間隔を求め、

前記第 1 及び第 2 の時間間隔に基づいて、前記第 1 レファランスピクチャの同一位置にあるブロックの前記 list 1 動きベクトルをスケーリングし、

前記同一位置にあるブロックのスケーリングされた前記動きベクトルに基づいて、前記双予測ブロックの前記ダイレクトモード動きベクトルのうちの少なくとも 1 つを求めることを特徴とするダイレクトモード動きベクトルの導出方法。

【請求項 2】

ダイレクトモードのための list 1 レファランスピクチャの同一位置のブロックが、list 1 動きベクトルのみを有する場合には、

さらに、前記ダイレクトモード動きベクトルを求めるための動きベクトルとして list 1 動きベクトルを用い、

前記 list 1 動きベクトルによって指し示されたレファランスピクチャをダイレクトモードのための list 0 レファランスピクチャと決定する、請求項 1 に記載のダイレクトモード動きベクトルの導出方法。

【請求項 3】

ダイレクトモードのための list 1 レファランスピクチャの同一位置のブロックが、list 1 動きベクトルのみを有する場合には、

さらに、前記同一位置のブロックは動き 0 を有すると見なし、

時間的に前記双予測ピクチャの直前に位置するデコーディングされたピクチャをダイレクトモードのための list 0 レファランスピクチャと決定する、請求項 1 に記載のダイレク

トモード動きベクトルの導出方法。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１３

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１３】

本発明のダイレクトモード動きベクトルの導出方法は、現在のピクチャの双予測ブロックのダイレクトモード動きベクトルの導出方法であって、同一位置にあるブロックがlist 1動きベクトルのみを有する場合は、現在ピクチャの双予測ブロックのダイレクトモード動きベクトルを導出するための動きベクトルとして、第１レファランスピクチャの同一位置にあるブロックのlist 1動きベクトルを選択し、現在ピクチャと、第１レファランスピクチャの同一位置にあるブロックによって参照される第２レファランスピクチャとの間の第１の時間間隔を求め、第１レファランスピクチャと第２レファランスピクチャとの間の第２の時間間隔を求め、第１及び第２の時間間隔に基づいて、第１レファランスピクチャの同一位置にあるブロックのlist 1動きベクトルをスケールし、同一位置にあるブロックのスケールされた動きベクトルに基づいて、双予測ブロックのダイレクトモード動きベクトルのうちの少なくとも１つを求めることを特徴とする。